



中部の

エネルギーを 築いた



木曾谷の夜明け ~その3~

名古屋財界、教育界で獅子奮迅の活躍をした **下出義雄**

下出義雄は、初めて実業家として出発した木曾川電力に1916(大正5)年から1942(昭和17)年に解散するまでの26年間、支配人から社長まで、大同電気製鋼所の社長に1931(昭和6)年から1946(昭和21)年までの15年間勤め、中部圏の名古屋と木曾福島町に大きく貢献した。

さらに、名古屋財界の重鎮であった父・民義からの事業を引継ぐばかりでなく、新たに新規事業を興した。このようにして名古屋を中心に事業経営者として獅子奮迅の活躍をしたが、その間に企業関係45(大同電気製鋼所、木曾川電力、名古屋紡績、名古屋鉄道、東海電極製造、名古屋観光ホテル、鈴木バイオリン等)、教育関係3(東邦商業学校、金城商業学校、大同工業学校)、公職関係9(衆議院議員、名古屋商工会議所副会頭、名古屋株式取引所理事長など)合わせて57の事業経営に係わったことが分かっている。

今月は、名古屋と木曾福島町に大きく貢献し、さらに名古屋財界、教育界で獅子奮迅の活躍をした下出義雄を紹介する。

なお、簡単な略歴は次のとおりである。



下出義雄
「1890(明治23)~1958(昭和33)」
(出典：大同製鋼50年史)

下出義雄の略歴

西暦	和暦	教育界・公職関連	産業界関連
1890	明治23	下出民義の長男として大阪市で出生	
1908	明治41	愛知一中卒業	
1913	大正2	神戸高等商業学校卒業	
1915	大正4	東京高等商業学校専攻科卒業 学術出版社「下出書店」を弟・隼吉と創業	
1916	大正5		㈱電気製鋼所設立
1917	大正6		木曾川電力支配人に就任 ㈱大同電気製鋼所取締役就任
1920	大正9		名古屋紡績専務取締役就任
1923	大正12	東邦商業学校設立認可・開校 「関東大震災」、弟・隼吉宅全焼、下出書店全焼	

1926	大正15	欧米教育事情視察(オックスフォード、ケンブリッジ、イートン校など)	
1929	昭和4		名古屋証券取引所理事長に就任
1931	昭和6		(株)大同電気製鋼所取締役社長に就任
1934	昭和9	東邦商業学校校長に就任	
1937	昭和12		経済使節団日本代表として欧米訪問
1939	昭和14	財団法人大同工業教育財団設立認可、初代理事長に就任	
1942	昭和17	財団法人下出教育報効財団設置認可、理事長就任 衆議院議員に当選	
1946	昭和21		大同製鋼株式会社社長辞任
1958	昭和33	逝去	

生い立ち

下出義雄は、下出民義の長男として、1890(明治23)年、大阪市安治川で生まれ、名古屋で育った。愛知一中、神戸高等商業学校を経て東京高等商業学校専攻科へ進学して、1915(大正4)年に卒業した。東京高商在学中は、当時、わが国の経済学の草分けで社会政策学派の中心であった福田徳三博士のもとで学究の道に進んだ。

妻の下出サダは、「東邦学園五十年史」中で「本人は学者になるつもりでしたし、私との結婚の話が起きた時もそんな風に聞いておりました。タイプとして実業家肌ではなかったですね。…」と話しているが、東京高商専攻科を終えた義雄は学校には残らなかった。弟の隼吉は東京大学文学部社会学教室で学び、

わが国の社会学の創始期に、日本社会学会を資金・実務面から貢献した。義雄は弟の隼吉と共に1915(大正4)年、東京・神田で学術出版社「下出書店」を創業した。

このように父親からの許しはでないが、せめて学術関係には関わり、当初は岩波書店の向こうを張って価値はあるけれども採算の取れる見込みがないような類の本を進んで出版するという意欲満々の出発であったらしい。ところが1923(大正12)年の関東大震災で、自宅も書店も在庫書籍も焼失し下出書店を廃業した。その結果、当時の金で6~7万円の赤字を出し、登場後あっという間に消えてしまったので“幻の出版社”と呼ばれている。

東邦学園下出文庫

下出義雄は1958(昭和33)年に亡くなったが、その後、遺族から東邦学園へ約16000点の図書・資料が寄贈された。

2008(平成20)年5月、愛知東邦大学地域

創造研究所長を歴任した森靖雄教授が目録を作成し一般公開されている。この中には、次のような翻訳ものも含め下出書店発行の34冊が所蔵されている。

書名	著者名	出版年	出版社
企業論	G. シュモラー著 増地康治郎訳	1921	下出書店
電気人形	F. T. マリネッツイ (戯曲)	1922	下出書店
企業形態論	リーフマン著	1922	下出書店
文明の救済	H. G. ウエルズ著 松根宗一訳	1922	下出書店

下出義雄の教育事業

東邦商業学校は、1923(大正12)年、文部省から認可を受け開校した。初代校長は前名古屋市長の大喜多寅之助、下出義雄が理事に就任した。開設後の1926(大正15)年、下出は米国YMCAの招待による訪米教育視察団の団長として視察した。そして単独でイギリス、ドイツ、フランス、イタリアと歴訪して青少年教育と商業教育の実情を見聞した。とくにイギリス教育の自由主義的気風を学び「信頼される真面目な実業人を育てたい」と教

育に自信を持ち1934(昭和9)年に校長に就任した。

また、イギリス留学中、ボーイスカウト運動(少年団教育)に興味を持ち、東邦商業に少年団を結成し、少年団日本連盟にも加盟していた。この他、野球部、バスケットボール部、剣道部、陸上競技部などの運動部、弁論部、珠算部、園芸部、美術部、書道部、新聞部などの校友会各部の文武両道、多面的に花開いた活躍は目を見張るものがあった。

木曾川電力株式会社の概要

「ひかりとねつ7月号」で掲載したように、1906(明治42)年に設立された福島電気(株)は、1919(大正8)年に(株)電気製鋼所と合併した。そして電気製鋼所は、1922(大正11)年に熱田、木曾福島両工場を大同製鋼に現物出資して、製鉄部門を切り離し、同年7月、大同製

鋼(株)は商号を大同電気製鋼所に改めた。さらに同年9月、電気事業部門を木曾川電力(株)と変更した。

ここに第43回営業報告書「1937(昭和12)年下半年(12年5月1日～10月31日)」によりその概要を紹介する。

- (1) 会社名：木曾川電力株式会社
本店所在地：東京市麹町区丸の内1-6
東京海上ビルディング新館8階
資本金：3,932,000円(旧資本金：2,788,000円)、株主数：1,213名
「このうち、下出義雄は2,112株(旧株：23、新株2,089)と約21%を保有した」
- (2) 役員
取締役社長：下出義雄

常務取締役：小野秀一、志水懐民

取締役：寒川恒貞、川合勸助、川崎舎恒三(工学博士)

川崎友之助、佐竹次郎

監査役：後藤幸三、岸義男、斎藤直武

相談役：福沢駒吉

(3) 営業概況

①電 灯：5 燭光から500W まで21,371個で総需要家戸数は6,965戸

②電 力：大同電力株式会社・900kW、鉄道省木曾福島駅・25kW、大同電気製鋼所福島工場・1,200kW、御嶽自動車商会・28kW、木曾劇場・5kW、その他電動機、医療装置などに供給

③大同電気製鋼所の状況

：鉄鋼界の市況は前期に引き続きますます活発となり、同会社注文引受高は相当多額に達して営業成績もまた良好であった。

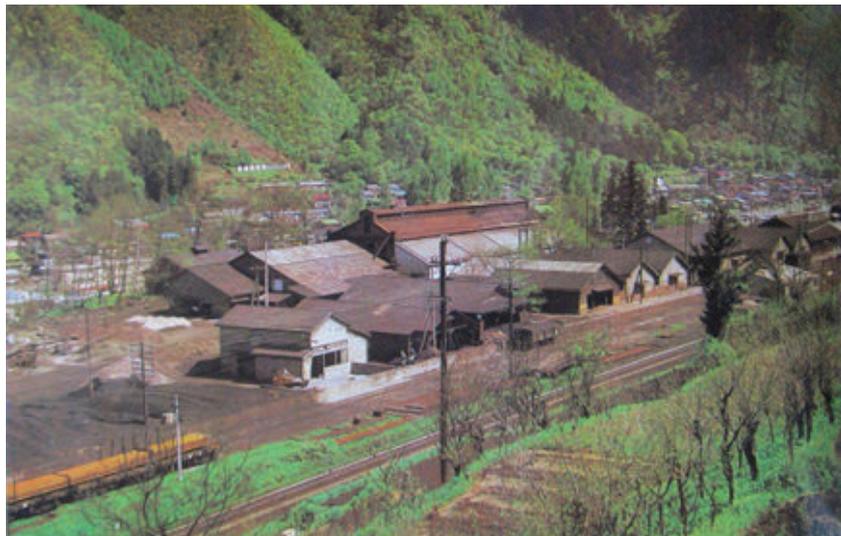
④株主配当金：電灯、電力の総売上高から総費用を差し引き、さらに営業外利益後の当期利益は77,800円を計上し、株主に8%の配当をした。

このような比較的順調な営業活動を続けたが、1942(昭和17)年、電力国家管理法に基づく配電統制令により解散した。

なお、大同電気製鋼所は1922(大正11)年木曾福島工場の操業を一時中止したが、

1932(昭和7)年に木曾福島工場から福島工場に名称を改め操業再開した。次号は福島工場と木曾川電力との関連を紹介する。

(寺澤 安正)



大同電気製鋼所福島工場概観